

SHIRAKOBATO

# しらこぼと



1997. 9

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO.161

日本野鳥の会 埼玉県支部

# 埼玉県支部についてのQ & A

## 第5回

今回は支部の調査研究活動について、小荷田行男研究部長がお答えします。

自然環境の調査研究は、なぜ必要なのですか？

環境問題は、公害列島と呼ばれた1970年代の主に特定地域のものから、近年は、ゴミ焼却場のダイオキシン問題のように、全国どこでも見られる事態に至っています。環境問題を真に実りある議論にするには、現状の、開発直前に行われるアセスメントなどはほとんど意味がなく、10年、20年という長い期間に渡るデータの積み重ねが必須なのです。

支部の研究部は、どんな活動をしているのですか？

テーマは、「野鳥から見た埼玉の自然環境の変遷」の調査研究です。

具体的には、野鳥の会本部が行っている全国調査への協力と、支部独自調査(表1)です。いずれも会員の皆さんをはじめ、リーダーや役員たちのご協力をいただいて実施しています。

研究部のメンバーは、いずれも調査研究を職業としているわけではありません。忙しい仕事を持ち、支部活動は週末に限られ、しか

もほとんどの人が日曜日には探鳥会リーダーとしても活躍しています。このため、研究部として多くの時間が必要な繁殖調査のようなものは、大変難しいと言えます。そこで、会員の方々にご協力いただけるような調査方法にしぼっているわけです。

逆に言えば、当研究部の自慢は、普通の会員の方々にもご協力いただけるような調査方法と、その集計プロセスの開発でしょうか。パーソナル・コンピューターによるデータ・ベースの登録、分布図の作成、集計など、1980年代に実施した「埼玉県野鳥分布調査」からのソフトウェアのノウハウを活用しています。

研究部の活動のもうひとつの側面として、会員の調査研究の助言と、報告発表のお手伝いも行っています。こういうことを調べたいのだけれども、どういう方法がよいだろうかと考えている方、あるいは調べた結果を発表したいのだけれども、どのようにまとめたら良いかと悩んでいる方は、どうぞご相談ください。

研究部で実施した調査の結果は、公開していますか？

会費によって成り立っている支部が、会員たちの力によって実施した調査は、当然、結果を会員全員に知らせる義務があります。

支部独自調査(表1)の結果は、各調査の終了後、遅くとも1年以内に支部報『しらこぼと』誌上に発表しています。

1985年5月から1990年1月にかけて実施した「埼玉県野鳥分布調査」は、分布図を掲載した『しらこぼと』増刊通巻107号(全28ページ)として、全会員と全国の野鳥の会支部などに配布しました。

表1 研究部の支部独自調査

調査名	期間	担当者
シギ・チドリ類	4/29と9/15	石井
ガン・カモ類	1/15	柳原
タカの渡り	9月末か10月初めの日曜日	小荷田
鳥の目から環境を調べよう!	5/10~7/10と12/1~1/31	小荷田

現在実施中の「鳥の目から環境を調べよう！」調査も、同様に、『しらこぼと』増刊号でその結果を発表したいと考えています。

研究部のメンバーは、どういうひとたちなのですか？

現在、部長以下6名で、表2の人たちです。メンバーの自然観察の興味の中心は、必ずしも野鳥ばかりではなく、それぞれの視点から自然を永く見続けています。

自然観察歴は必ずしも年齢と対応はしていません。また、あくまでも「自己申告」によるものをそのまま掲載したものであり、研究部として真偽を調査研究した結果の表ではありません。

「野鳥から見た埼玉の自然環境の変遷」についての調査研究に興味のある方、独自のテーマを持ち、支部活動として実施してみたい方、調査研究の方法について興味のある方など、研究部のメンバーとして、いつでも歓迎します。

研究部は支部創設の1年後に発足しましたが、なぜか現在にいたるまで、女性部員は一人もいませんでした。

研究部は、いつ、どこで、どのような作業をしているのですか？

浦和駅西口近くの支部事務局で、『しらこぼと』の編集会議が開催され、その日程は、「連絡帳」欄に掲載されていますが、毎月そ

れと同じ日の午後3時ころから6時ころまで、編集部と部屋を分け合って、研究部会を開いています。

部会では、各種の調査研究の立案、調査データの整理と内容検討、調査報告の作成などを主に行っています。

現在、研究部で一番大変な仕事は「鳥の目から環境を調べよう！」調査で皆さんから送られてきた調査はがきの集計作業です。

調査はがき1枚ずつについて、

- ① 書かれている住所から、地図上の位置を示す8桁のメッシュ・コードを、地形図を見ながら割り当てる。
  - ② 鳥種名を、調査期間を考慮してチェックする。
  - ③ 鳥種名に相当する野鳥コード・ナンバーをふりあてる。
  - ④ 調査はがきに通し番号をふる。
  - ⑤ パソコンのデータ・ベースに、上記①から④と、環境条件や、餌台などの観察条件をコード化して入力する。
- という作業を続けています。

■最後に小荷田研究部長からもう一言

当支部の諸活動は、専従職員をおかず、すべてボランティアで行っています。研究部もそうです。生態学の専門家もおらず、各人のノウハウをしばりだして活動しているのが、研究部の姿です。

これからもアマチュア的な発想を原点として、「野鳥から見た埼玉の自然環境の変遷」についての調査研究活動を行っていきますので、ご助言、ご協力をお願いします。

表2 自己申告による研究部メンバー紹介

氏名	自然観察歴	フィールドでの得意分野	主なフィールド
石井 智	23年	埼玉の鳥相	秋ヶ瀬・大久保農耕地
小荷田行男	30年	森と湿原の自然史	根釧原野（北海道）
佐久間博文	13年	野鳥、野草	西川越
森本 國夫	14年	カヌー	長瀨
柳原 正昭	4年	木を眺めること	入間川
和田 康男	30年	野鳥	さきたま古墳、大麻生

1997年春

# シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

日 時：1997年 4月29日 9:30～11:30

場 所：大久保農耕地

天 候：快晴

チドリ類の個体数をまとめたものです。

(石井 智)

1994年～1997年 春のシギ・チドリ類調査結果

4月29日に大久保農耕地でシギ・チドリ類の調査を行いました。この日は低気圧が東に去り、高気圧におおわれ、夏を思わせる暑い日になりましたが、支部会員19名の協力が得られました。ご苦労さまでした。

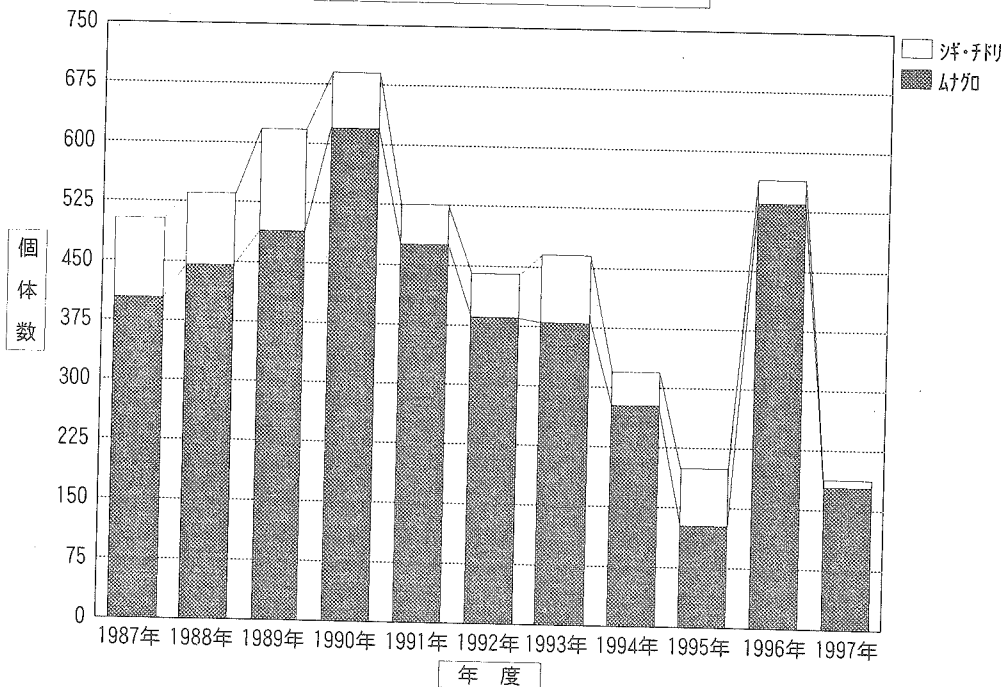
観察された種数・個体数は3種191羽で、昨年の春と比較すると種数で3種少なく、個体数では373羽少なくなっています。これは、昨年にくらべると、ムナグロの個体数が356羽少なくなったことが大きな原因です。

4月18日にムナグロが、226羽観察されてからはほとんど雨が降らず、シギ・チドリ類はあまり観察されていないという情報がありました。しかし、前日に雨が降り、当日はある程度の個体数がカウントされました。

グラフは春のカウント結果のうち、大久保農耕地におけるムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類

調 査 地	大 久 保 農 耕 地 浦 和 市 / 大 宮 市			
	'94 年	'95 年	'96 年	'97 年
鳥 類				
コチドリ	—	7	1	—
ムナグロ	277	127	534	178
キョウジョシギ	2	1	—	—
ハマシギ	1	—	9	—
アオアシシギ	3	—	—	—
タカブシギ	13	25	5	—
チュウシャクシギ	12	11	3	10
タシギ	10	26	12	3
ジシギSP.	1	2	—	—
個 体 数 合 計	319	199	564	191
種 数 合 計	8	7	6	3

ムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類



### ■ワールド・バード・ウォッチ97

今年は、鳥類保護の国際組織であるバードライフインターナショナル(前ICBP)が設立されて75周年になります。

日本野鳥の会をはじめとする各地域のパートナーの協力によって進められている活動のひとつ、国際的なバードウォッチング・イベント「ワールド・バード・ウォッチ」も今年で3回目を迎え、全世界で300以上の団体が参加する予定です。世界中で鳥に対する関心を高め、鳥類保護の必要性を広く一般に知ってもらうことが目的です。

期間は1997年10月4日(土)～5日(日)の2日間。埼玉県支部としてはその両日開催する渡良瀬遊水地・北本市石戸宿・浦和市民家園周辺の探鳥会の結果を報告して参加する予定です。

### ■ワシタカ渡リウォッチング97

同じバードライフ・インターナショナル主催イベントの一環として、アジア地区のパートナー達が力を合わせ、アジアのワシタカの渡りルートを解明することになりました。

こちらの期間は9月末から10月末まで。

この間に観察したワシタカ類の渡りの様子を、日本野鳥の会鳥と緑の国際センターWING(〒191日野市南平2-35-2、FAX0425

-93-6873)に報告してください。個人的に観察した結果も受け付けます。

観察報告はインターネットのホームページで公開しますので、公開しない方が良いと判断される情報を除いて、ご報告ください。

### ■第3回NTTワールド・バード・カウント

NTTが主催し、日本野鳥の会とバードライフ・インターナショナルが協力するワールド・バード・カウントも開催されます。

こちらは1997年10月1日～31日の1ヵ月間で観察された鳥を世界的に集計し、観察された鳥1種につき約1,000円がバードライフ・インターナショナルに寄付されるイベントです。(昨年は前にもご報告したとおり513万7,000円が寄付され、インドネシア・フィリピン・ベトナムで希少鳥類の調査に使われました。)

期間中の観察結果を、〒160新宿区西新宿3-20-2東京オペラシティタワー14F NTTワールド・バード・カウント事務局にお送りください。

報告方法は郵送のほか、電子メール、WWW、ファックス、留守番電話です。報告の書式は後日、ちらし、『野鳥』誌、インターネットで配布します。

### 憧れのキミへ

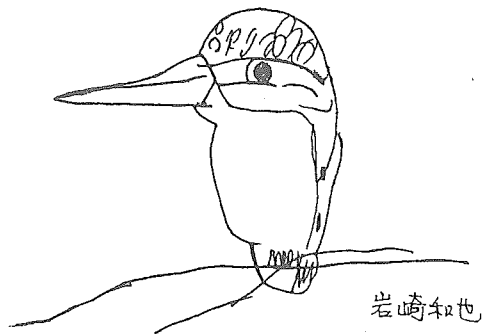
岩崎ますみ(新座市)

「いつも遠くで見えています。決して触れては、いけません。」なんだか、バードウォッチングって恋愛に似ていると思いませんか。

「今日はキミに会えるといいな。」そんなことを思いながら、探鳥会に出かけます。

大麻生の明戸堰で昼食をとっていると、近くでチチチチ…ッと鳥の声。「ん、この声はカワセミだ。」憧れのキミの姿を一目見ようと、双眼鏡にあわてて手をやりました。それから数秒後。ハクセキレイが上空を鳴きながら通過。「……」。私のバードウォッチングの腕前は、こんなもんです。ナサケナイネ。

まだまだ、キミへの片思いは始まったばかり。今度こそ、キミをオトシテミセル!!



## 森の交響曲 白馬探鳥会

齊藤俊雄 (岩槻市)

若葉の淡い緑が美しい5月の白馬はここかしこから鳥の囀りが聞こえてくる。それは森の交響曲だ。「にほめの一步」に到着しバスから降りると、交響曲の第1楽章が始まった。第1楽章の主役はクロツグミ。その囀りはウグイスやコジュケイの囀りを取り入れた不思議な響きを持っていた。そこにアカゲラ、アオゲラの打楽器が加わったところで、第1楽章は終わった。

早朝探鳥は浅間山へ。第2楽章の主役はオオルリ、コルリの青い鳥。オオルリは梢のてっぺんで精一杯歌っていた。コルリは藪の中で姿は見えない。しかし、チッチッチという序奏からつながる囀りは美しく、姿が見たいという思いが募る(実はラッキーにも自分と妻だけその姿を見ることができた。そのためこの文を書くことになったのだが…)

第3楽章は朝食後の探鳥。アカショウビンへの期待が膨らむ。しかし、残念ながら「キョロロロ…」という歌声を聴くことはできなかった。かわりの主役はキビタキ、ノジコ、メボソムシクイ。最後に宿の前でハチクマが上空を舞い、見事に第3楽章を締めくくった。

第4楽章はバスの中。ビデオとともに楽しかった鳥たちとの出会い、鳥好きの人との出会いを振り返った。充実した2日間に満足して、いつのまにやら夢の中。夢の中ではアカショウビンが美しく囀り、交響曲はフィナーレへ。交響曲第2番を聴きにまた白馬を訪れたいという気持ちを強くする、素敵な探鳥会だった。



白馬探鳥会

## 戸隠・飯綱高原探鳥会

山川 登・武子 (大宮市)

野鳥の会に入会以来、戸隠のすばらしさについていろいろ耳にしていたので、是非行ってみたいと思っていました。

幸い、5月24日・25日の戸隠探鳥会に参加させていただき、その鳥種の多さや、植生の豊かさを満喫できて、お世話になったリーダーや諸先輩に感謝しています。

当日の予報は雨で、お天気が少し心配でした。初日、歩き終る頃から雨が強くなり、夜には雨脚がかなり激しく、翌早朝3時半からのお目あてオオジシギのディスプレイフライト探索は中止になりましたが、その後雨も止み、思いのほかよい天気になり、雨後の新緑がさわやかでした。森林植物園の木立はすばらしく、また私共には珍しい鳥にたくさん出会えました。

獲物を足に掴んだハイタカ、樹洞からじっとこちらを見つめるフクロウ、黒いからだに黄色い嘴の目立つクロツグミ、鮮やかな衣裳が新緑に映えるキビタキ、忙しく幹を移動するキバシリ、アオジに似たノジコ、黒っぽくて地味な色ながら美しくさえずるクロジなど、これらは私共の初めてお目にかかれた鳥たちでした。

いつもながら、リーダーや諸先輩の目と耳の鋭敏なことには感服してしまいます。

一泊しての探鳥会というのも今回初めてでしたが、これも楽しいものでした。日帰り探鳥会でたまにお目にかかる方々とも、ゆっくりお話しできる機会もあり、又、ある方とは、お互いの懇談の中で、双方の家の父親同士が交友関係にあったことなどがわかり、思わぬ出会いにびっくりして、これも今回の探鳥会の思い出的一幕となりました。

食事中と食後に放映して下さった野鳥ビデオもおもしろく拝見し、参考になりました。もちろん、おいしいそばと地酒一しかもお代わり自由—もうれしかったことを忘れずに申し添えます。



野鳥情報

蓮田市黒浜の東埼玉病院 ▷4月12日、斜面林下の小川でカワセミ1羽(田中幸男)。  
 蓮田市黒浜沼 ▷4月12日、上沼北側の水田で、クイナ1羽。5月18日、上沼北側でカッコウ1羽。同日、下沼北側の水田でアマサギ1羽がザリガニ捕食(田中幸男)。  
 東松山大谷 ▷5月16日午前4時50分、雨上がりの朝、ホトトギスの第一声に目が覚めた。今季初認。5月28日、カッコウ1羽。今季初認。今年のカッコウは遅かった。6月30日午後10時頃、アオバズクの声。毎年と同じ時季(中村豊己)。  
 東松山市民の森 ▷6月7日、ヒメアマツバメ約10羽(中村豊己)。  
 嵐山町笛吹峠 ▷6月14日、サンコウチョウの声(中村豊己)。  
 川本町の荒川明戸堰上流 ▷6月28日、チュウサギ、アオサギ、イカルチドリ、イソシギ、カワセミ(後藤康夫・喜久子)。  
 川越市親水公園 ▷6月29日、安比奈グラウンド近くの入間川でヨシゴイ2羽、カラスに脅かされて芦原から飛び出した(上野恵美子)。  
 行田市寺前 ▷6月29日、柳大橋横の畑でシラコバト1羽(後藤康夫・喜久子)。  
 幸手市神扇 ▷6月29日、ゴミ焼却最終処分場の焼却灰埋立地で、コアジサシ30羽以上が繁殖中、ヒナ9羽。他にコチドリ4羽。7月12日にはコアジサシのヒナ14羽と、コチドリ成鳥4羽、シロチドリ成鳥2羽、ヒナ3羽(秋間利夫)。  
 熊谷市星溪園 ▷7月1日、ゴイサギ1羽(後藤康夫・喜久子)。  
 東松山市都幾川 ▷7月5日、東松山橋から稲荷橋の間でゴイサギ、アマサギ、チュウサギ、アオサギ、ノスリ、ツミ、イカルチドリ、キアシシギ、カッコウ、ホトトギス(後藤康夫・喜久子)。  
 小川町槻川 ▷7月6日、割谷橋からしまね

はみ出し行事案内

■長野県・戸隠飯綱高原探鳥会(要予約)■  
 期日:10月25日(土)~26日(日)  
 集合:25日午前9時10分、JR長野駅  
 交通:長野新幹線「あさま551号」(東京7:08→上野7:14→大宮7:35→熊谷7:49→高崎8:05→長野9:04)、または「あさま1号」(東京7:30→大宮7:53→長野8:53)  
 費用:11,000円(1泊3食、現地バス代、保険料など)の予定。万一過不足の場合は現地で清算。集合場所までの交通費は各自負担。  
 定員:30名(先着順、県支部会員優先)  
 申込み:往復はがきに、住所・氏名・性別・年齢・電話番号を明記して、菱沼一充( )まで。  
 担当:菱沼、岡安、田口  
 見どころ:秋の戸隠で、紅葉とマミチャジナイ、ムギマキたちにプラスして、食べる楽しみもお待ちしています。  
 新幹線に賛否はあると思いますが、長野がちょっぴり近くなりました。  
 ご注意:宿泊は、男女別の相部屋です。個室などのご用意はできません。

橋の間でノスリ、イカルチドリ、ホトトギス、カワセミ(後藤康夫・喜久子)。  
 騎西町の休耕田 ▷7月13日、アオアシシギ1羽。7月17日、タカブシギ2羽。7月20日、イソシギ2羽。7月21日、アオアシシギ2羽、タカブシギ5羽。7月24日、トウネン1羽、コチドリ約20羽、タカブシギ1羽、イソシギ1羽、オオジシギ2羽(樋口信之)。  
 岩槻市慈恩寺沼 ▷7月14日、バン6羽、カイツブリ1羽(吉川伸一、リリィ)。  
 毛呂山町旭台 ▷7月16日、ツミの幼鳥2羽、親鳥の姿はなかった(増尾隆)。  
 坂戸市入西 ▷8月1日、ヨシゴイ♀1羽、ガマの茎にとまって。水中をねらっていた(増尾隆)。

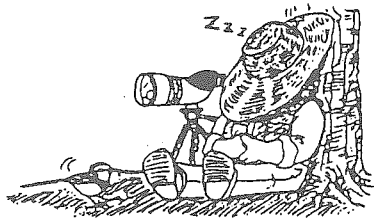
表紙の写真

タカブシギ(シギ科)

昨年、杉戸町の休耕田で撮影した写真です。  
 今まで、田んぼの野鳥には余り関心がなく

て、注目していなかったのですが、意外とたくさん野鳥がいることがわかって、驚いています。  
 宇恵昭良(草加市)

# 行事あんない



(渡辺 敦)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

◆9月7日(日)の千葉県船橋海浜公園探鳥会と千葉県習志野市谷津干潟探鳥会については8月号をご覧ください。

## 千葉県木更津市・小櫃川河口探鳥会

期日：9月13日(土)

集合：午前10時 木更津市金田海岸駐車場。  
または午前9時30分JR内房線いわね駅前、集合後タクシーで現地へ。

交通：JR武蔵野線南浦和7:16→南船橋で京葉線乗換え8:14→蘇我で内房線乗換え8:47→いわね着9:16。乗車券はホリデーパスが便利でお得です。

解散：現地で15時頃

担当：中島(康)、松井、櫻庭、新堂、中村(栄)

見どころ：東京湾に広がる唯一つ残った大きな干潟。そこに集まるシギ・チドリを観察します。

注意：干潟の中を歩きますのでゴム長靴が必要です！ 昼食、水筒、帽子、雨具をお忘れなく。

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月14日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：和田、森本、中島(章)、石井(博)、倉崎、松本

見どころ：日照りの夏も去り、風が季節の移り変わりを運んできます。南へ飛つ鳥、北から来る鳥と渡りがそろそろ始まります。

## 坂戸市・高麗川探鳥会

期日：9月21日(日)

集合：午前9時 東武越生線川角駅前

交通：東武東上線川越8:12、坂戸で越生線乗換え8:41発に乗車、川角8:50着

担当：高草木、藤掛、石井(幸)、青山、久保田、志村

見どころ：川辺を歩くと足元の虫の音も一段と澄み渡り、吹く風にも秋色が濃く感じられます。猛禽類や渡り途中の鳥達との出会いを楽しみに出かけて来ませんか。コシアカツバメも期待できますよ。

## 浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：9月21日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺(周)、手塚、笠原、伊藤、若林、倉林、森、兼元、岡部

見どころ：夏が去り、見沼たんぼの秋です。かかしの帽子にアキアカネが止っています。さあ鳥達の世界！ 去年はサン



バが飛び、電線にコムドリがいました。今年はツツドリや久しぶりのエゾビタキが出てくれるのでしょうか。

#### 寄居町・鐘撞堂山探鳥会

期日：9月23日（火・祝）

集合：午前8時30分 秩父鉄道寄居駅北口

交通：秩父鉄道熊谷7:44、またはお花畑7:46発、または東武東上線川越7:27発寄居行き特急に乗車。

担当：菱沼（一）、田口、小池、林（滋）

見どころ：普段の探鳥会ではタカが見られるかどうかは運しだいですが、今回ばかりはタカがメインです。しかし、上ばかり見ていると足元の小さな秋を見落としてしまいますよ。

#### 『しらこぼと』袋つめの会

とき：9月27日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

#### 狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月28日（日）

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口

交通：西武新宿線本川越8:42発、または所沢発8:36に乗車

担当：長谷部、高草木、藤掛、石井（幸）、小野、中村（祐）、山本、久保田

見どころ：入間川では、四季を通じて元気なカワセミ、コサギ、ホオジロ達を観察します。稲荷山公園では渡りの途中の鳥達との予期せぬ出会いに期待しましょう。

#### 本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：9月28日（日）

集合：午前9時 JR本庄駅北口。集合後午前9時05発十王バス新伊勢崎行きに乗車、坂東大橋南詰下車。現地集合可。駐車は土手側にのみお願いします。

担当：町田、小池、林（滋）、中島（章）、倉崎、堀

見どころ：ススキの穂もちょっぴり伸び、暑かった夏のなごりを感じながら「気ま

まにバードウォッチング」のコースを歩きます。シギやチドリの仲間、ノビタキなどに会えると嬉しいですね。それに電線に止まるショウドウツバメの群れも見ごたえがありますよ。

#### タカの渡り調査

期日：9月28日（日）

恒例の調査です。一日空を眺めているだけで貴重なデータが得られます。初めての方もお気軽にどうぞ。雨天（小雨でも）中止。この場合10月5日（日）に延期します。調査のため参加費は無料です。

◆天覧山（飯能市）

集合：午前9時から正午までの間、ご都合のよい時間に山頂展望台へお越しください。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩30分

担当：佐久間

他に下記の地点でも調査を行います。

◆鐘撞堂山（寄居町）・山頂

◆堂平山（都幾川村）・天文台下の駐車場

◆物見山（東松山市、鳩山町）・山頂展望台  
調査時間は朝から正午過ぎまで。お近くの方ご都合の良い時間にお越しください。

#### 北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月4日（土）

集合：午前9時10分 東武日光線柳生駅前

交通：JR宇都宮線大宮8:01→栗橋8:30着、東武日光線乗換え8:53→柳生9:02着

担当：新堂、中島（康）、松井、内田、入山、篠原（五）

見どころ：見上げる空も高くなり、足元の草原も秋色がいっぱい。天にミサゴ、チュウヒ、チョウゲンボウ、舞うショウドウツバメ。地にノビタキ。池にカモと勢ぞろいの渡良瀬です。

-----  
◆10月の行事予定

10月5日（日）北本市石戸宿定例探鳥会

浦和市民家園周辺定例探鳥会

※7ページに「はみ出し行事案内」があります。

# 行事報告

12月1日(日) 浦和市 民家園周辺

参加: 51人 天気: 晴

カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ  
カルガモ コガモ オナガガモ トビ ノスリ  
コジュケイ タゲリ イソシギ ユリカモメ キ  
ジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキ  
レイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モ  
ズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ  
ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カ  
シラダカ アオジ カワラヒワ マヒワ シメ  
スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハ  
シブトガラス (41種) お目当てのタゲリは数羽飛  
んでいるのを見ただけだったが、たくさんの鳥が  
出て、みんなが楽しめたようだ。(伊藤芳晴)

3月16日(日) 長瀬町 宝登山

雨のため中止。

4月6日(日) 北本市 石戸宿

参加: 21人 天気: 雨

カイツブリ カワウ マガモ コガモ ノスリ  
コジュケイ キジ バン キジバト コゲラ ヒ  
ヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ メジロ  
ホオジロ アオジ カワラヒワ イカル シメ  
スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハ  
シブトガラス (25種) 空模様を気にしながら出発。  
バードソンのメンバーと共に歩いた小雨に濡れた  
桜のトンネルは美しかった。途中から本降り。天  
候に恵まれず、出現鳥は少なかったが、どうやら  
激励会らしきものができてよかった。(岡安征也)

5月16~18日(金~日) 東京都 三宅島

参加: 15人 天気: 16=曇、17=雨後曇、18=曇後晴

オオミズナギドリ ハイイロミズナギドリ ハシ  
ボソミズナギドリ オーストンウミツバメ ウミ  
ウ ミゾゴイ ゴイサギ ササゴイ アマサギ  
ダイサギ チュウサギ カルガモ トビ コジュ  
ケイ キジ メリケンキアシシギ キアシシギ  
アカエリヒレアシシギ ウミネコ カラスバト

キジバト ツツドリ ホトトギス アマツバメ  
コゲラ ツバメ コシアカツバメ ヒヨドリ モ  
ズ ミソサザイ コマドリ イソヒヨドリ アカ  
コッコ ウグイス ウチャマセンニュー イイジ  
マムシクイ ヤマガラ シジュウカラ メジロ  
ホオジロ カワラヒワ スズメ ハシブトガラス  
(43種) 早朝、大路池に着いたところで雨は本降  
りとなる。「どうなることか」と先が思いやられ  
るが、天候はしだいに回復に向かって、2日間順  
調に探鳥を楽しんだ。ウチャマセンニューが何度  
も見られたのと、メリケンキアシシギが大きな成  
果だったが、これまでになくアカコッコが見つか  
らない。大路池に限っても大きく変わってしまい、  
これから先どうなるのか心配である。いつま  
でも憧れのバードアイランドであってほしい  
ものだ。(榎本秀和)

5月18日(日) 浦和市 三室地区

参加: 70人 天気: 晴

カワウ コサギ カルガモ コジュケイ キジ  
バン イソシギ キジバト カッコウ コゲラ  
ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ コヨ  
シキリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ  
ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナ  
ガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 前  
日は大雨であったので、芝川は増水。前週のバ  
ードソンで初夏の象徴キアシシギが出現したがこの  
日はシギ・チは見られず、芝川は満々の流れだ  
った。しかし、オオヨシキリが紅い口の中を見せて  
十分鳴いて、参加者を喜ばせてくれた。また、テ  
レビ埼玉の取材があって5/27に放映された。(予  
定より早くなったので、見たい方は探鳥会でビデ  
オを見せます。) いつもと違って芝川を下って竹  
藪コースを歩いたが、コヨシキリが初出現したの  
で、この探鳥会の出現鳥は108種となった。

(楠見邦博)

5月24~25日(土~日) 長野県戸隠飯綱高原

参加: 34人 天気: 24日=雨、25日=曇

カイツブリ アオサギ カルガモ ハチクマ トビ  
 ハイタカ ノスリ タカsp キジ キジバト  
 カッコウ ツツドリ ホトトギス フクロウ ア  
 オゲラ アカゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ  
 キセキレイ ハクセキレイ サンショウクイ ヒ  
 ヨドリ モズ ミソサザイ コルリ クロツグミ  
 アカハラ ウグイス オオヨシキリ センダイム  
 シクイ キビタキ オオルリ コサメビタキ エ  
 ナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ  
 ゴジュウカラ キバシリ メジロ ホオジロ ノ  
 ジコ アオジ クロジ カワラヒワ ウソ イカ  
 ル ニュウナイスズメ スズメ コムクドリ ム  
 クドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラ  
 ス (56種) 24日は雨で、鳥たちが活動するにはち  
 ょっと降りが激しかったようだ。それでも小降り  
 になるとカラたちが姿を見せてくれた。夜も雨音  
 が大きかったが、起床する頃には上がっていた。  
 予定を変更して森林植物園を中心に探鳥し、前日  
 見られなかった分まで取り返せた。コルリ、キビ  
 タキ、クロツグミ、クロジ、オオルリ、キバシリ、  
 フクロウなど皆で観察できた。バスで牧場まで移  
 動して昼食。奥田旅館特製の味噌汁を御馳走にな  
 った。(菱沼一充)

5月25日(日) 本庄市 坂東大橋  
 参加: 23人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ カルガモ トビ チ  
 ョウゲンボウ キジ コチドリ イカルチドリ  
 シロチドリ イソシギ アジサシ コアジサシ  
 キジバト カッコウ ヒバリ ツバメ イワツバ  
 メ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ  
 オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ  
 スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハ  
 シブトガラス (30種) 前日からの大雨がウソのよ  
 うな好天!!チョウゲンボウの「いらっしゃいコ  
 ール」にうながされて土手の下の唯一歩けるコース  
 を進む。河原は水浸し。ナ、何と、中州は水没。  
 コアジサシが悲しそうにフライトするのみ。ヒナ  
 たちの運命は!!番のツバメチドリの姿もなく、が  
 っかり。唯一の救いはアジサシを全員がじっくり  
 見られたこと。「合掌」(町田好一郎)

5月25日(日) 狹山市 人間川  
 参加: 24人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサ  
 ギ アオサギ カルガモ トビ コジュケイ イ

ソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ  
 ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキ  
 レイ ヒヨドリ オオヨシキリ メボソムシクイ  
 (コメボソムシクイ) セッカ シジュウカラ  
 ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナ  
 ガ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) い  
 つも出発前に説明をする八幡神社でコメボソムシ  
 クイが現われた。幸先のよいスタート。しかし、  
 前日の雨で増水し、濁り、流れの速い川には水辺  
 の鳥は少ない。カワセミだけは何度も姿を見せて  
 くれた。さすがキングフィッシャー。名前は伊達  
 じゃない。(長谷部謙二)

5月31日(土) 栃木県 奥日光  
 参加: 22人 天気: 晴

オシドリ マガモ ノスリ オオジシギ キジバ  
 ト カッコウ ホトトギス アオゲラ アカゲラ  
 コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ セグ  
 ロセキレイ ビンズイ モズ カワガラス ミソ  
 サザイ ノビタキ アカハラ ウグイス メボソ  
 ムシクイ エゾムシクイ キビタキ コサメビタ  
 キ コガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカ  
 ラ ホオジロ ホオアカ アオジ ウソ イカル  
 ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ カケス  
 ハシブトガラス (39種) 湯川沿いでは、トウゴク  
 ミツバツツジやシャクナゲが咲きそろう中、湯滝  
 から赤沼まで鳥を求めて歩きました。夏鳥のキビ  
 タキ、ホオアカやオオジシギのフライトが見られ、  
 また、ミソサザイ、ビンズイ、アカハラなどもた  
 っぷり見られ、実り多い探鳥会でした。(中島康夫)

6月1日(日) 浦和市 民家園周辺  
 参加: 51人 天気: 晴

カワウ コサギ カルガモ コジュケイ キジ  
 コチドリ シラコバト キジバト カッコウ コ  
 ゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセ  
 ケレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ  
 シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ  
 ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガ  
 ラス (26種) 挨拶の途中に上の電線にカッコウが  
 止まり、じっくり観察。この日は朝から強い日差  
 しが照りつけ、まさに夏。人も鳥たちも暑さでバ  
 テ気味。元気だったのはオオヨシキリ。久し振  
 りにシラコバトがチラリと姿を見せてくれた。  
 (手塚正義)

連絡帳

●粘り強く諫早湾保護活動を

〔署名活動〕

『野鳥』8月号に署名用紙が同封されました。ご協力をお願いします。

本部事務局で一旦集計しますので、お集めいただいた署名は本部事務局（〒150渋谷区南平台町15-8ウディ南平台ビル2階）宛てにお送りください。締め切りは9月末です。

〔いさはやグッズ販売〕

ブックレット『イサハヤ』 干拓事業見直しの理論的根拠を整理して、諫早干潟緊急救済本部の企画で緊急出版。游学舎、A5版94ページ、税別700円。

写真集『有明海』 諫早湾の干潟と生活の記録。写真と文・富永健司、まな出版企画、25.5×24.5cm148ページ、3,000円。

『西日本の干潟—生命あふれる最後の楽園』 干潟の価値を検証。山下弘文著、南方新社、19×13cm230ページ、1,600円。

Tシャツ

デザイン 干潟夕景(前) 干潟夕景(後)  
カニ(前)

地色 白(WHT) 生成り(NAT)

サイズ XL L M S

バタゴニア製オーガニックコットン100%。  
2,500円。デザイン・地色・サイズを指定してご注文ください。

問合せ 諫早干潟緊急救済東京事務所（〒102千代田区九段南4-7-22-303、TEL 03-3238-1951、FAX 03-3238-1952）

同事務所宛てFAXで注文書を送り、代金は「口座番号：00140-3-402895、加入者名：諫早干潟緊急救済東京」にご送金ください。入金確認後発送します。送料は着払いです。

シンポジウムの開催費、交通費、人件費、通信運搬費などの活動資金が必要です。資金集めにご協力ください。タンパも同じ郵便振替口座で受け付けています。

●核都市広域幹線道路に反対する連絡会

こちらの活動でご協力いただいた署名は、

7月15日集計で、建設大臣宛て26,304名、県知事宛て26,471名に及びました。

その内建設大臣宛て署名の地区別内訳は、埼玉県11,918名、東京都7,354名、神奈川県2,354名など、県内内訳では所沢市6,027名、富士見市699名、大宮市605名などのご協力をいただきました。

7月17日(木) 広井連絡会会長が埼玉県庁で小池土木部長に署名を手渡し約20分間話し合い、土木部長は「東西をつなぐ道路は県民要望のひとつ。できるだけ環境に配慮した道路作りをしたい」と語ったとのこと。

●9月の事務局 土曜と日曜の予定

13日(土) 編集会議。

20日(土) 校正作業。役員会議(仮日程)。

27日(土) 袋づめの会。

●会員数は

8月1日現在2,937人です。

活動報告

7月7日(月)「普及部だより」を全役員リーダーに発送(海老原教子、楠見文子)。

7月19日(土) 8月号校正作業(海老原美夫、喜多峻次、工藤洋三)。

7月19日(土) 役員会議(司会：榎本秀和、各部の報告・関東ブロックでのカワー一斉調査・その他)。

7月21日(月)三種郵便定期監査手続き書類を作成発送(事務局)。

編集後記

今度の勤務先はなかなか緑が多く、ヒラタクワガタ、タマムシをひさしぶりに手にすることができた。ハキリバチの巣もみつけた。300円の捕虫網と250円の虫かごを買い、ビール瓶2本ほどの汗をかいて、ぼこぼこに藪蚊に刺されながら、30年ぶりに昆虫採集を楽しんでいる。同僚たちが、そんな私となんとなく少し距離を置いているように感じるの、なぜだろう。不思議だな。(山部直喜)

『しらこぼと』1997年9月号(第161号)

定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460

〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130

印刷 関東図書株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用